

甲子園でも一戦必勝



甲子園での活躍を誓う織笠陽多選手(右)ら
=29日、八戸市のデーリー東北ホール

第104回全国高校野球選手権青森大会で3年ぶりに優勝し、11度目の夏の甲子園出場を決めた八戸学院光星高等学校のメンバーが29日、八戸市のデーリー東北新聞社を訪れ、聖地での活躍を誓った。

(福田駿)

本社訪問

光星ナイン、活躍誓う

洗歩人主将ら選手3人と仲井宗基監督、小坂真志部長、中村良寛校長が来社。デーリー東北ホールで社員から花束を受け取り、荒瀬社長と懇談した。

仲井監督は「青森大会決勝で戦った」工大一高の思いも背負いながら、レベルの高い青森県のを全国に知らしめたい」と意気込みを披露。

決勝で本塁打を放つなどチームを甲子園に導く活躍を見せた織笠陽多選手(六戸町出身)は「青森大会は厳しい戦いが続いた。甲子園でも一戦必勝で頑張りたい」と決意を語った。

これに対し、荒瀬社長は「光星のユニホームは甲子園球場によく似合う。先輩たちが築いた伝統を守りながら、新たな歴史の一ページを刻んでほしい」とナインの健闘に期待した。

全国大会は8月6日開幕。組み合わせ抽選会は同3日に行われる。

八戸市庁に応援看板設置



八戸市は29日、八戸学院光星高等学校の全国高校野球選手権出場を祝い、市庁前に甲子園での活躍を祈願する応援看板を設置した。

看板は縦90センチ、横90センチ。校名の文字部分は、同部のイメージカラーであるエンジ色で仕立てた。

この日は、仲井宗基監督や選手らが市庁に熊谷雄一市長を訪ね、青森大会の優勝を報告。熊谷市長は「一つ一つの戦いで勝利を積み重ね、悲願の初優勝を目指

応援看板の前で甲子園大会への決意を新たにする八戸学院光星高等学校のメンバーら29日、八戸市庁

は看板の設置作業を見守った。洗歩人主将は取材に、「新型コロナウイルス禍で厳しい生活が続いていると思うが、自分たちのプレーで勇気を与えたい」と意気込みを語った。

(福田駿)